

イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年10月3日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、週末9/2のWTI原油は、先週比6.19ドル安の86.87ドルとなりました。米連邦準備制度理事会(FRB)や欧州中央銀行(ECB)が大幅な利上げを継続して行うとの見方が広まっています。また広東省深圳市などが再びロックダウン(都市封鎖)を実施、四川省成都市では、市民の外出を原則禁止する方針を発表しました。利上げによる景気減速と中国景気の先行きに懸念が広がり原油は、売られました。

●第2週、週末9/9のWTI原油は、先週比0.08ドル安の86.79ドルとなりました。OPECプラスは、5日の会合で10月から日量10万バレルの減産を決定し原油は買われました。7日、米欧の主要中銀がインフレ抑制のために積極的な金融引き締め姿勢を維持し利上げを長期化すれば、世界的な景気減速を招くとの懸念が広がり原油は売られました。8日、欧州連動(EU)がロシア産天然ガスに価格上限を設ける方策を検討すると表明したことを受け、プーチン大統領がガス供給停止を警告し原油は買われました。

●第3週、週末9/16のWTI原油は、先週比1.68ドル安の85.11ドルとなりました。国際エネルギー機関(IEA)は、世界景気の減速や中国経済の停滞を受けて、世界の石油需要は、10~12月期に伸びが鈍化すると予想しました。また米欧中銀による積極的なペースでの利上げを背景に景気減速懸念が広がる中、エネルギー需要への先行きへの警戒感も根強く原油は売られました。

●第4週、月末9/23のWTI原油は、先週比6.37ドル安の78.74ドルとなりました。米連邦準備制度理事会(FRB)は21日の連邦公開市場委員会(FOMC)で政策金利を0.75%引き上げることを決めました。英国やスイスなど主要国の中央銀行も相次ぎ利上げを発表。またユーロ圏と英国の購買担当者景気指数(PMI)速報値はそろって低水準を記録。米総合PMIも業況の拡大・縮小の分岐点である50を3ヶ月連続で下回りました。

●第5週、月末9/30のWTI原油は、先週比0.75ドル高の79.49ドルとなりました。OPECプラスが10月5日に開く会合で11月に日量50万~100万バレルの追加減産を行う方向で調整しているとの報を受け需給引き締め観測が広がりました。しかしその後は売りが優勢となり相場はマイナス圏に転落しました。また9月のOPEC原油量が前月比21万バレル増の日量2981万バレルと2020年4月以来2年5か月ぶりの大きさになったとする調査結果をロイター通信が公表しました。また外国為替市場では、ドル指数が約20年ぶりの高値圏にあり、ドル建てで取引される原油先物の割高感も嫌気されました。

9月平均	WTI原油	83.80ドル	前月比	▲7.68	為替 1ドル	144.09円	前月差	7.85円
------	-------	---------	-----	-------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
9/1~9/7	37.1	+9.0	+9.0
9/8~9/14	36.5	-1.0	-1.0
9/15~9/21	35.6	-2.5	-2.5
9/22~9/28	36.7	+1.0	+1.0
9/29~9/30	35.7	-1.0	-1.0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2022年4-6月C重油決定価格	105,210	110,110	(105,210(メニュー)+4,900(プレミアム))
2022年7-9月C重油仮価格	122,000	128,580	(122,000(メニュー)+6,580(プレミアム))	
2022年7-9月C重油決定価格	114,000	120,120	(114,000(メニュー)+6,120(プレミアム))	
決定価格4-6月比	8,790	10,010		

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	A重油	
2022年4-6月C重油決定価格	105,300	114,800
2022年7-9月C重油仮価格	133,480	
2022年7-9月C重油決定価格	125,000	117,400
決定価格1-3月比	19,700	2,600

CIF価格推移	年/月	9析速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	22/8	9析速報	95,610	112.41	135.22	-4.056
	22/9	最終予測	92,550	105.56	139.39	-3.060
	22/10	展望	86,619	102.00	135.00	-5.931
	22/11	展望	81,741	99.96	130.00	-4.878

【次世代エネルギー】<トヨタやマツダが参戦 大きな成果を上げるCN燃料>

カーボンニュートラル(CN)燃料への注目度が拡大しています。そのきっかけはENEOSスーパー耐久シリーズ(S耐)にトヨタやマツダが次々とCN燃料を100%燃料とするモデルで参戦し、大きな成果を挙げているからです。CN燃料とは、二酸化炭素(CO2)を回収することで、燃焼させても大気中のCO2を増やさない燃料の総称です。大きく2つの種類があり、ひとつは次世代バイオ燃料(バイオディーゼル、SAFジェット燃料)で、成長過程で光合成によってCO2を回収する植物を原料にバイオマスで生成する光合成ルート(CN燃料)です。ミドリムシなどの微細藻類を原料にユーグレナ社が提供するバイオディーゼルが代表例です。もうひとつは工業合成ルート(CN燃料)で、再エネで作られたグリーン水素とCO2を合成して作られる合成燃料(e-Fuel、SAFジェット燃料)やバイオマスを用いて作られるバイオエタノールを炭化水素へ合成するバイオ由来の合成燃料(エタノールtoガソリン)があります。2022年のS耐では、マツダは100%バイオディーゼル、トヨタとSUBARUは100%合成燃料で走行しているのです。世界的にレースと次世代燃料との繋がりには深く、米国のインディは100%バイオエタノールですし、欧州フォーミュラ1は2026年のルール改正で100%合成燃料の使用に変更し、VWグループのポルシェとアウディの参戦が濃厚となっています。日本ではS耐が環境技術を磨く最前線の現場と化しているのです。CN燃料とは、まさにカーボンリサイクル技術を具現化したものであり、2030年をめどにSAF(持続可能な航空燃料)とバイオディーゼルの既存製品と同等のコストに近づき、合成燃料は2040年をめどにガソリン価格に接近できると経済産業省はロードマップしています。

出典 ①<https://bestcarweb.jp/feature/column/498287> ②<https://www.yomiuri.co.jp/economy/20220913-OYT1T50313/>

【10月価格変動要因】

●需要:2022年の中国の原油需要は、およそ20年ぶりに減少すると言われている。しかしその主因は、3月から始まった大規模なロックダウンによるものが大半で10月以降については、需要の回復が見込まれている。また米欧は厳冬が予想されており中間留分を中心に需要が増加する可能性がある。

●供給:OPECプラスは、10月の会合で日量100万バレルの減産を行うと報じられている。しかし仮に生産量目標を基準とした減産であればすでにOPECは生産量の目標に対して大幅未達であることから効果はあまり無いと予想する。一方で現在の生産量を基準とした減産であれば価格に与えるインパクトがかなり大きいだろう。

●在庫:北米の冬場を前にして現在の中間留分の在庫量はやや心もとない。一方で原油の在庫量は5年平均に接近してきており一時期ほどの逼迫感はない。今後は、製油所の稼働率が鍵になってくる。またSPR放出が一段落したと言われており今後の原油在庫にも注目しておきたいところ。

●リスク資産:9月13日発表された米国の消費者物価指数は依然として高水準。FRBは金利の引き上げを断行する覚悟であり、引き続き株式を中心としたリスク資産には、向かい風が吹いている。一部の金融機関からは、資金不足の声も聞こえており金利上昇を要因とした金融危機懸念が急激に台頭して来ている。

●地政学:ロシアはウクライナの想定以上の反転攻勢を受けて急遽ウクライナの4つの州を併合した。当然、国際的に認められるものではないが、緊張を煽ったことは事実。また欧州に対する仕打ちとしてノルドストリームパイプラインを破壊した。エネルギーを使った欧州に対する兵糧攻めの様相を呈しており追い込まれたロシアがさらに過激になる可能性に注意したい。

【10月価格変動要因】 (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	100	95
Average	90	84
Low	85	80

日付	国	10月経済指標カレンダー	日付	国	10月経済指標カレンダー
3	米	9月ISM製造業景況指数	19	欧	9月消費者物価指数(HICP、改定値)
5	米	9月ADP雇用統計	26	米	9月新築住宅販売件数
5	米	9月ISM非製造業景況指数	27	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利
7	米	9月非農業部門雇用者数変化	27	米	7-9月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
7	米	9月平均時給	27	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
7	米	9月失業率	28	米	7-9月期四半期雇用コスト指数
12	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	28	米	9月個人消費支出(PCEデフレーター)
13	米	9月消費者物価指数(CPI)	31	欧	10月消費者物価指数(HICP、速報値)
14	米	9月小売売上高	31	欧	7-9月期四半期域内総生産(GDP、速報値)

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。